

4月から  
他の病院への  
移動が決まっ  
ていました

私は  
鈴木栄子  
岩手県立大槌病院で  
総看護師長をしていました

# HANAのうた



こしのりょう  
<http://etou.exblog.jp/>



え



じん……  
じしん

そんな時  
でした



3月11日  
14時46分18秒  
マグニチュード9.0  
東日本大震災

病院は  
騒然とした

間もなく  
停電  
そして…

患者さんの  
安全かくにん

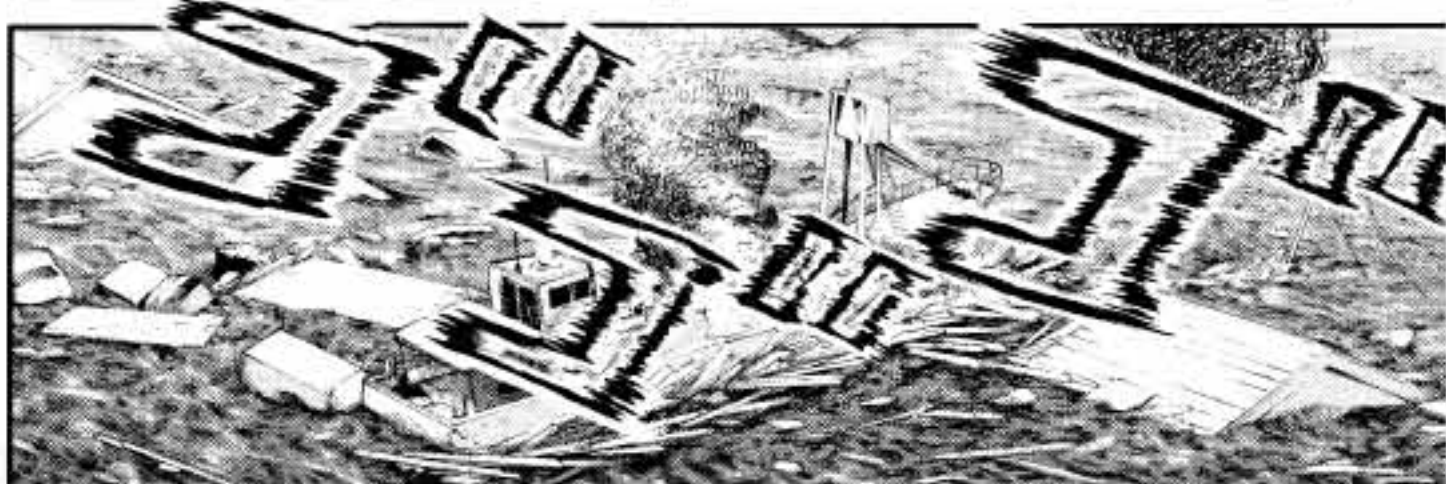
はい

津波警報  
です



患者さんを  
屋上に  
避難させて！

はい！



患者さんを  
職員全員で  
屋上の  
サンルーム  
に避難  
させました



津波は  
病院の2階まで  
のみこみました



雪が降り  
ここえるような  
寒さのなか

あちこちで  
ガス爆発がおき  
生きた心地が  
しませんでした



電気・水道  
情報・物品  
すべてが  
ないなかでも



病院の  
職員は  
患者を支え  
なければなりません

レスピレーター  
管理だった  
患者さんは  
代わる代わる  
アンピユ  
バッグを  
手押し

吸引も  
注射器で



私たちはタオル  
ビニールのエプロンをし  
カーテンを巻き  
防寒しました



私たちも被災者でした

家のことが心配で泣きながら働くナースもいました



幼子を  
持つ母ナースは  
おっぱいが  
はって  
痛い  
泣いて  
いました



今出ても危ないと  
言っても  
心配で  
家に帰った  
ナースもいました



余震が  
続くなか  
みんな  
ちゃんと  
休めているのか  
心配でした



ナースたちは  
患者さんの  
間で休憩を  
とって  
いました  
患者さんを  
温めるように  
そして自分も  
温まるように



ここでは  
医療者・患者ではなく  
一緒に震災を  
戦う仲間でした



2日目

救援はまだ  
来ませんでした



なんとか残っている

食品・薬品をかき集め

患者さんに対応しました



私たちに回ってきたのは  
少しのおかゆ



それでも十分でした  
おなかが空いたという  
感覚は  
ありませんでした



そんななかでも  
ちゃんと臨時で  
シフト表をつくり  
対応しました



水が流れないなか  
簡易トイレに  
オムツを使うという  
アイデアも



ナースの  
発案でした

震災の日  
休みだったナースが  
心配で来てくれました



沢の水でご飯を炊き  
おにぎりをつくって  
持ってきてくれた  
ナースもいました



みんなも  
支え合って  
いました

いいえ  
支え合うしか  
なかったのです



ラジオから

また  
大きな地震が  
来ます



また ここで  
地震や津波が  
来たら  
耐えられない

避難場所の  
高校に避難する  
ことを決意しました



帰れる  
患者さんは  
帰ってもらい

残った

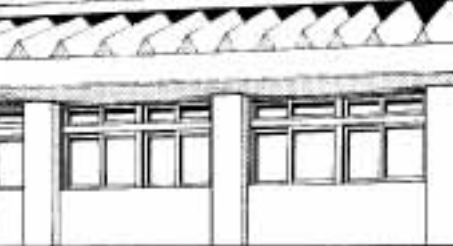
患者さん28名を

高台にある

高校に

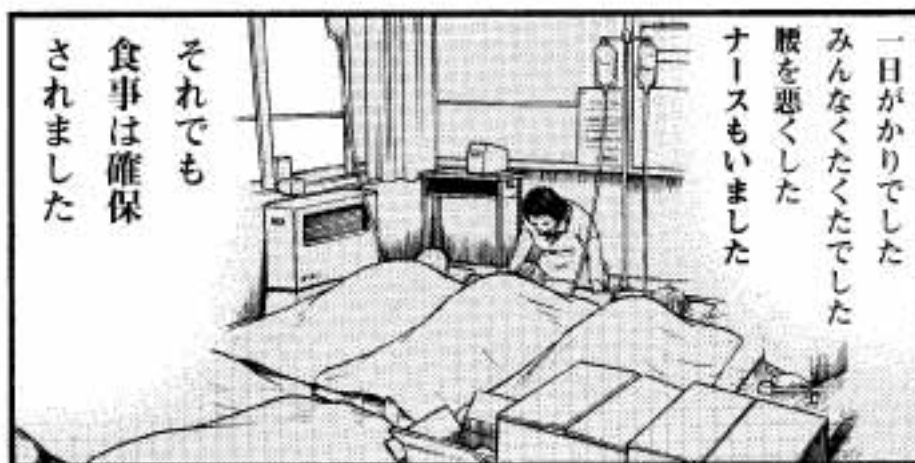
運びます

全員  
車イスで



一日がかりでした  
みんなくたくたでした  
腰を悪くした  
ナースもいました

それでも  
食事は確保  
されました



おいしい



でも  
ずっと  
ここには  
いられません



4日目

軽症の患者さんを

受け入れる

施設を探し

運びました



5日目

DMA Tが入り

救急隊によって

すべての患者の

受け入れ先を

決めました



あ…  
鈴木さん  
ですか

ええ

受け入れ先の  
ナースから  
これ  
預かってきました



私たちは  
つながっている……



頑張れ  
鈴木!!  
…病院 田川京子

亡くなった

患者さんは2名

震災直前に

亡くなっていた

患者さんを含め

3名の方を

遺体安置所に

送りました

6日目

すべての

患者さんに移し終え

病院は一時

解散と

なりました



職員は  
一時帰宅

でも：  
私の住んでいた  
アパートは  
流されていました

まだ発見されていない  
ご遺体が  
ありました



なんとか

震災を

まぬがれた

大船渡の

自宅に

帰りました



そこには

被災して

難を逃れた

妹がいました

ただいま



母が  
亡くなって  
いました

両親も  
被災し

辛うじて

避難できた

のですが

酸素治療が

必要な

母は

入院し病院で…



母の

床頭台には

いくつもの

レトルトパックが

置かれた

ままだった

そうです



母は  
リウマチで  
手が不自由でした

きっと

病院が

混乱するなか

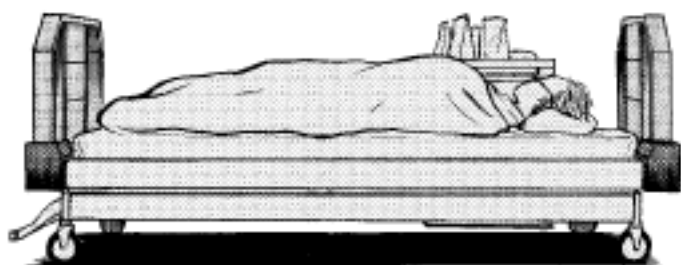
情報も

ないなか

母は

レトルトパックを

開けることもできないで…



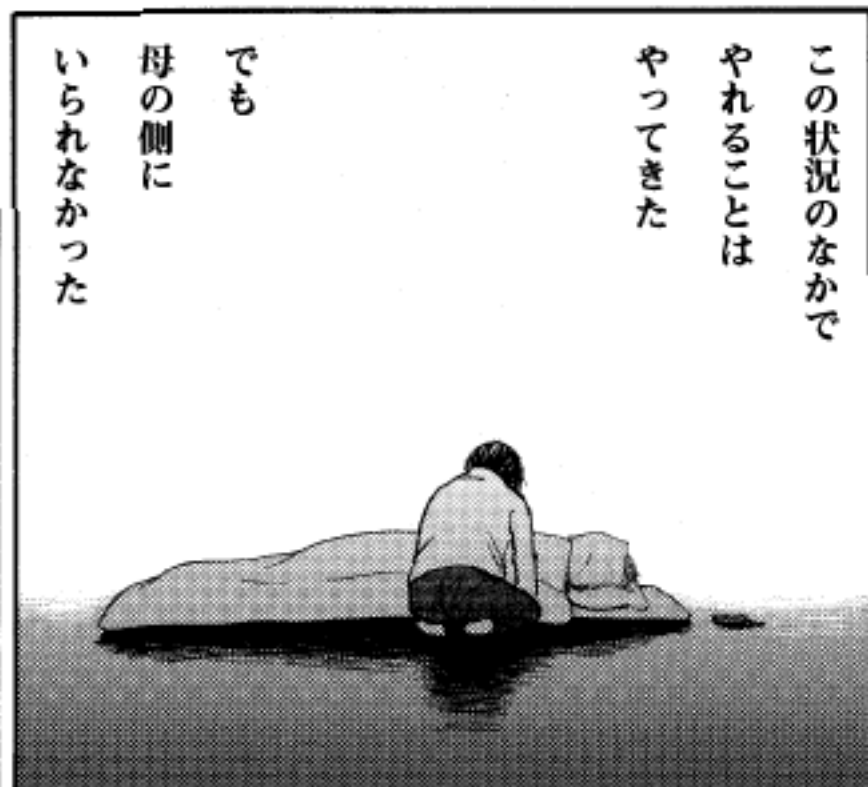
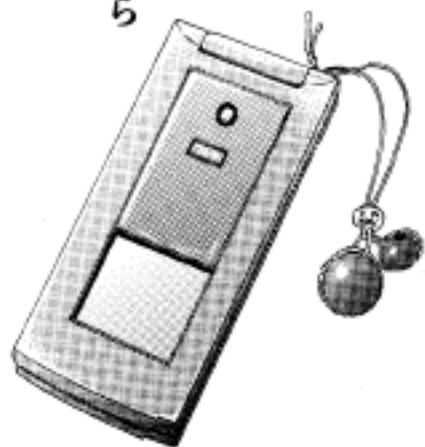
この状況のなかで  
やれることは  
やってきた

でも

母の側に  
いられなかった

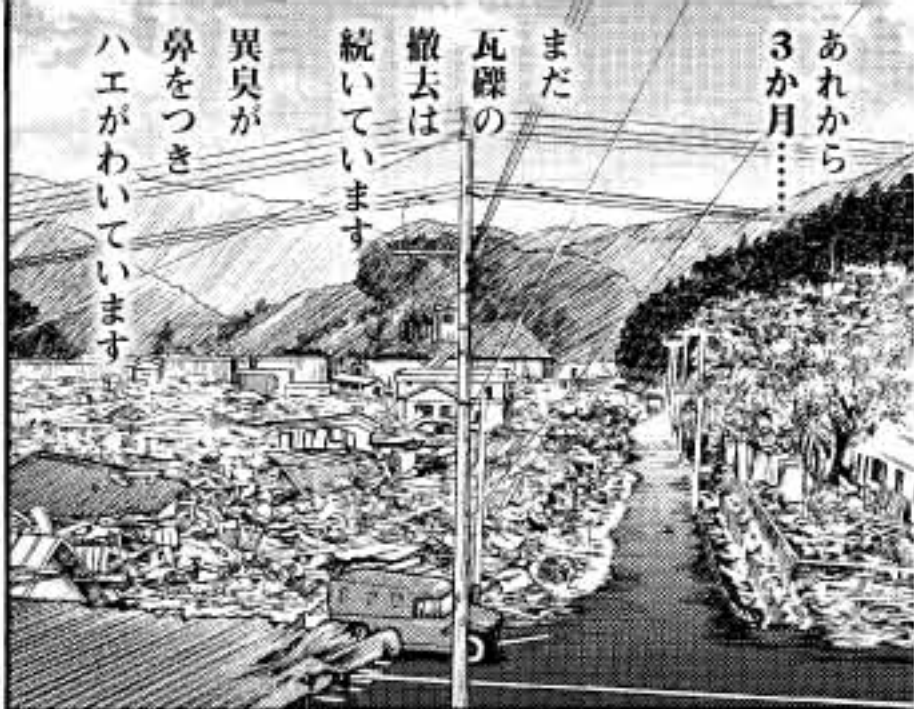
こんなこと  
思っても  
しようがないと  
自分に  
言い聞かせながら

どうしても  
その思いは  
湧いてきます



あれから  
3か月……

まだ  
瓦礫の  
撤去は  
続いて  
います  
異臭が  
鼻をつき  
ハエが  
わいて  
います



私は新しい  
病院に赴任し  
新しい生活が  
始まり  
ました



この町では  
ライフラインは  
復旧し

お店にも  
品物が揃い  
震災前の生活を  
取り戻し  
つつ  
あります



以前持っていた  
お気に入りの本やCDも  
店頭に  
あり  
ました

お金も  
あります  
でも  
まだ  
買う  
気が  
おき  
ません



震災は

亡くなられた方は

もちろん

残された者にも

大きなキズを残しました



失ったものが  
大きすぎて…  
これから何をしていいのかわからなくなっています

震災について  
レポートを  
書いていただけ  
ませんか



はっきり言って

思い出したくもない

どう書けば

いいかも

わからない



でも  
これを

何かを

始めなければ

という

思いにも

駆られました



一から…



それぞれの人に  
残るキズは

いくら人から  
頑張れと  
言われても  
すぐに  
癒されるものでは  
ない気が  
します



人それぞれ  
かかる時間は  
違いますし  
ゆっくりで  
いい…

すべての人が  
自分で  
キズを埋める  
何かを見つけ  
られると  
いいなど  
思います



母の形見の  
ケータイには

実家に  
あった  
アジサイの花が  
咲いています



4月  
大船渡

被災した  
小学校の  
桜も  
咲いた  
そうです



枝は折れ  
ガレキに  
埋もれても

力強く

